

令和6年度 西九州大学短期大学部
「データサイエンス（リテラシーレベル）教育プログラム」自己点検・評価報告書

1. はじめに

西九州大学短期大学部点検・評価に関する規定に則り、「データサイエンス（リテラシーレベル）教育プログラム」の自己点検・評価を実施した。

2. 履修状況及び修了の実績（休学者・退学者を含む）

授業科目名	履修者数	修得者数	修得率
データサイエンスの基礎	143名	141名	98.6%
SDGs 入門	147名	147名	100%
SDGs の実践	143名	140名	97.9%
情報リテラシー I (演習を含む)	147名	147名	100%
プログラム修了者数	149名	142名	95.3%

3. 自己点検評価組織

西九州大学短期大学部点検・評価運営委員会が毎年行う自己点検・評価の一環として実施した。また、その評価結果については教務委員会で分析し、学科・コースレベル、科目担当レベルでの改善を促す。

4. 2024年度点検・評価対象

2024年度に開講した授業科目「データサイエンスの基礎」、「SDGs 入門」、「SDGs の実践」、「情報リテラシー I（演習を含む）」と履修学生の学習成果、学生による授業評価を対象とした。

5. 評価結果の判定

評価結果に基づき、以下の3段階の評価レベルで判定を行った。

- 【3】優れている。十分に行われている
- 【2】行われており相応である
- 【1】改善の必要がある

6. 点検・評価結果

(1) 授業科目の点検・評価

点検項目	点検結果	評価結果
履修・修得状況・学習成果に関する事項	<p>2024 年入学生全員が必修科目である「データサイエンスの基礎」及び「情報リテラシー I」、「SDGs 入門」、「SDGs の実践」を履修している。データサイエンスの基礎については、履修者 143 名のうち、単位取得者が 141 名であり、取得率は 98.6%である。情報リテラシー I 100.0%、SDGs 入門 100.0%、SDGs の実践 97.9%であった。</p> <p>学修成果としては、授業内容の節目にレポート課題を設定し、学生の理解度を把握するようにつとめている。</p>	<p>履修状況及び単位修得状況は良好である。学生の学修成果の把握も適切に行われている。</p> <p>評価レベル【2】</p>
授業で用いた教材・課題等に関する事項	<p>○情報リテラシー I については、「30 時間でマスターOffice2019」（実教出版）の内容・演習に準拠しながら、コンピュータの使い方からデータの扱い方等について基礎的な事項から学修出来るように工夫している。</p> <p>○「データサイエンスの基礎」については、オムニバス形式の講義であるため、各回の担当教員が講義資料を作成している。リアルタイムのオンライン形式を基本とするが、一部の講義においてはオンデマンド型で実施している。また、学生の興味関心を高める工夫として、一部の授業においては、双方向型のツールを取り入れて行っている。</p> <p>○「SDGs の入門」はオンデマンドで実施している。テキスト「未来をつくる道具 わたしたちの SDGs」の内容に準拠しながら、SDGs の項目を確認し、データを用いる事で、どのような事がわかるかを理解できるように工夫してい</p>	<p>教材及び課題等の内容・レベルは、授業の到達目標に対して適切である。</p> <p>評価レベル【2】</p>

	<p>る。</p> <p>○「SDGs の実践」では、持続可能な開発目標の中からいくつかのテーマを取り上げ外部講師の講話やグループでのディスカッションを中心に講義を進めている。また、デコ活アクションの実践シリーズで調査したデータをグループ毎に集計・分析・評価してまとめ、プレゼンテーションを行うことで具体的な数値の扱い方を身に付ける工夫を行っている。</p> <p>「データサイエンスの基礎」、「SDGs 入門」の授業については Teams 上にアーカイブを残し、学生がいつでも自由に講義の閲覧、振り返りができるようにしている。</p>	
<p>授業評価アンケートを通じた学生の評価・意見の状況</p>	<p>全授業科目について、授業評価を実施しており、その結果に基づいて担当教員が講義計画を改良し、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>データサイエンスの基礎や情報リテラシー I については、概ね好評の評価となっている。授業評価アンケートにおいても、データサイエンスの基礎では 3.3 程度（最大 4.0）、情報リテラシー I については 3.5 程度（最大 4.0）の評価を得ている。自由記述では、「様々な分野でデータサイエンスが活用されていることが理解できた」、「AI・データサイエンスに興味を持てた」などの好意的な意見も多くみられた。また、授業形態については「対面授業の方が良い」という意見があった。</p>	<p>授業評価アンケート等によって、授業改善の取り組みが適切に行われている。</p> <p>評価レベル【2】</p>

(2) 教育プログラムの点検・評価

点検項目	点検結果	評価結果
教育プログラム修了者の進路・活躍状況はどうか	修了者の進路については、各学科コースの専門分野の業種に就職するケースが多い結果となっている。また一部のコースにおいては、本プログラムの関連科目を積極的に履修している学生では、4年制大学への編入学を志望し、その結果、希望している大学へ進学を決定する学生が多い。	教育プログラム修了者の進路・活躍状況について適切に把握できている。 評価レベル【2】
産業界等社会等からの意見を聴取しているか	令和7年3月27日に本教育プログラムに関する外部評価を実施した。外部評価委員からは特に意見はなかった。 外部評価委員： ・あいおニッセイ同和損害保険株式会社・佐賀支店営業顧問 井手 栄治 ・伊万里市役所健康福祉部子育て支援課保育係 松尾美由紀 ・一般社団法人佐賀市観光協会 事務局長 川尻眞司 ・一般社団法人佐賀青年会議所 理事長 古賀修平	外部評価委員会を開催し、産業界等社会からの意見を聴取している。 評価レベル【2】
評価結果を学内および社会に対して広く公開しているか	令和7年4月に点検・評価運営委員会において評価を実施（4月教授会報告）し、4月中に短期大学HP上に掲載する。	産業界等社会等からの意見聴取を令和7年3月までに実施し、同年4月に自己点検・評価（4月教授会報告）を実施し、その結果を大学HP上に掲載するため基準を満たしているといえる。 評価レベル【2】